

平成30年度 学校評価結果について

主に、生徒、保護者アンケートを中心に、「よく当てはまる」と「だいたい当てはまる」を合わせた値を肯定的回答、「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた値を否定的回答として集計・分析した。

1 回収率

生徒・学生	保護者	教職員
98.8%	90.7%	98.7%

2 実施期間

平成30年11月13日（火）～26日（月）

3 評価の高い項目・低い項目

1) 生徒、保護者ともに評価の高かった項目（80%以上）

「部活動は活発に行われている」

「有意義な学校行事がある」

「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

「教育課程は、進路に適した科目選択ができる」

「学校行事は活発に行われている」

また、看護科のみの項目については、生徒、保護者ともに肯定的回答が85%を超えていた。

評価の高かった項目については昨年度と同じであり、また各項目の数値についても、前年度との有為な差は認められなかった。

2) 生徒、保護者ともに評価の低かった項目・生徒、保護者に差が見られた項目

①「いじめの早期発見に取り組んでいる・いじめ問題に対する取組方針が共有されている」

肯定的回答は、生徒59.1%、保護者38.1%であり特に保護者の肯定的回答の数値が低い。しかし生徒の肯定的回答は、年々増加しており、生徒指導部を主体とした取組が、生徒にとって実感を伴う改善となっていると考えられる。また、保護者の数値の低さについては、「わからない」と回答した割合が32.6%と高いことから、項目の性質上、学校の取組が家庭に伝わりにくいことも肯定的回答が低い理由の一つと考えられる。

②「学校のWebサイトを見ている・学校のWebサイトは充実している」

肯定的回答が、生徒22.0%、保護者49.6%と低く、否定的回答については生徒74.2%、保護者22.9%であった。Webサイトが主に保護者や地域、中学生らを対象としているため、本校生徒が「見ていない」と回答するのは当然である。今後は閲覧対象者を明確にし、日々の学校の様子や部活動での戦績等、ニーズの高い情報を高い頻度で更新する等の工夫が必

要となるだろう。

③「M&Tタイムは自分の役に立っている・M&Tタイムの実施内容を知っている」

肯定的回答が、生徒45.6%、保護者32.3%と低く、否定的回答が生徒43.7%、保護者31.9%と他の項目と比較すると高い。生徒の肯定的回答が減少している要因として、今年度から探究活動を中心に据えた取組を始め、これまで実施してきたSOL活動や職場訪問を任意のフィールドワークに変えたことや、希望通りのゼミ（グループ）に入れなかったであろう生徒がいたこと、ゼミ（グループ）によって研究の進捗状況に差が生じていたこと、等が考えられる。また、初年度ということもあり、すべての生徒に対して十分な支援ができる指導体制が構築しきれていなかったという反省点もあげられる。今後は、今年度の成果と課題を把握した上で次年度に向けた指導計画をたて、「総合的な探究の時間」に向けて準備をすすめていく必要がある。

3) 生徒、または保護者に評価の低かった項目（50%以下） ※上記2) であげたものを除く
生徒においては該当なし。

保護者においては「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」（45.5%）の項目で、肯定的回答の割合が低い。自由記述にも同様の内容が見られるので、各種たよりや三者面談等で開かれた学校であることをアピールする必要があるかもしれない。

4 前年度からの変動の大きかった項目等（5ポイント以上）

1) 生徒、保護者アンケートについて

保護者アンケートにおいては、前年度から5ポイント以上変動があった項目はなかった。

生徒アンケートにおいては、「学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」が5.9ポイント増となり、M&Tタイムにおける地域創生ゼミの活動が始まったことが影響していると考えられる。

一方で、「総合的な学習の時間（M&Tタイム）は、自分の役に立っている」が6.7ポイント減となっており、要因などについては前項で分析したとおりである。

2) 教職員アンケートについて

肯定的回答の割合を昨年度と比較した場合、特に大きく変動が見られた項目としては、「学校として地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」（13.4ポイント増）で、M&Tタイムにおける地域創生ゼミの活動や、部活動における地域での活動が活発に行われていたことが肯定的回答につながったと考える。また、「一斉配信メールは役立っている」（14.2ポイント増）についても、交通機関の乱れに伴う臨時休校等の連絡が滞りなく行われたこと、また、図書館だよりの配信や奨学金のお知らせ等、情報提供のツールとして活用が進んでいることを評価していると考えられる。進路に関する項目「年次・保護者との連携を密にするよう努めている」（14.0ポイント増）については、定期的な進路だよりの発行と、情報の周知徹底・共有が行われていることが評価されているととらえた。

一方で、今年度からの取組を評価することとなった「M&Tタイムは生徒の学習や進路や生き方に役立っている」(8.1ポイント減)、現在見直しを図っている「教育課程は、生徒の進路希望に応える内容になっている」(8.4ポイント減)については、今年度の活動を振り返り、次年度に向け基盤を固めていくことが必要である。また、1,2年次の「スタディサポート、模擬試験の分析と活用」に関する項目については、これまでも担任面談や進路講演会、教科担当者間での情報共有が行われてきたところであるが、今後は個々の生徒に効果的にフィードバックすることができる体制づくりについて、具体的な方策を考えることも必要なのではないだろうか。

なお、ほとんどの項目の肯定的回答が80%前後となっている中、肯定的回答が60%台だったものは以下の4項目である。(ただし必ずしも否定的回答が多いというわけではなく、「わからない」という回答の割合が比較的高いことも影響していると思われる。)

「支部PTAは学校と家庭の相互理解の場として役立っている」(前年度比+5.7)

「M&Tタイムは生徒の学習や進路や生き方に役立っている」(前年度比-8.1)

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」(前年度比-0.9)

「学校運営を円滑に行うことができるように予算配分している」(前年度比-8.3)